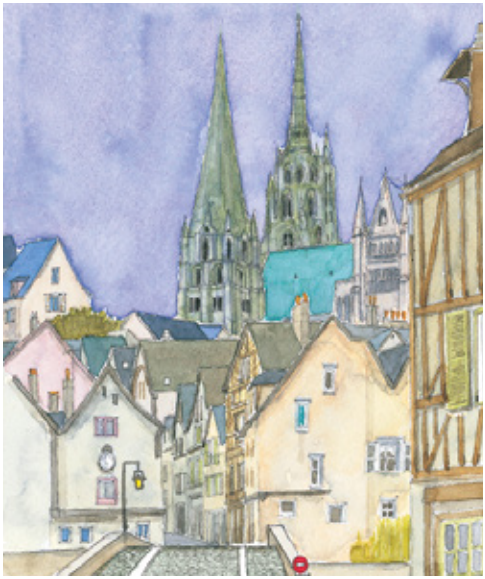

第77回　私のスケッチブック

「参道から望む大聖堂」

シャルトル／イル・ド・フランス（フランス）

シャルトルは、パリ、ランス、ストラスブール、アミアンと共にノートルダム大聖堂で有名です。パリからはモンパルナス駅よりローカル列車で1時間程度、車でも1時間半程度ですから日帰り観光圏です。サントル・ヴァル・ド・ロワール地域ですから恐らくル・マン方面行きの列車だったと思います。私も週末に何度か機会を得て訪ねる事が出来ましたが、やはり旧市街の参道から訪れる事を勧めます。

ウール川を渡って進むと、レストラン、Café、お土産物屋そして16世紀から残る中世の木組みの街道、敷き詰められた石畳は旅情を楽しませてくれます。

シャルトルの顔であるノートルダム大聖堂は、ゴシック建築の最高傑作。しかし、尖塔が左右違う事に気付かれると思います。建築途中の大火で南側の尖塔が、古いロマネスク様式のままで残されています。

そして圧巻なのが、「シャルトル・ブルー」と呼ばれるステンドグラス。息を呑む美しさです。天気によって左右されますが、明るい自然光の差し込む午後2時頃が見学の理想的な時間と云われています。この大聖堂にも「聖遺物」が祀られ、聖母マリアの聖衣（ガウン?）だそうです。

パリのノートルダム大聖堂には、キリストがゴルゴダの丘で十字架に掛けられる時に頭に被っていた「荊の冠」が祀られています。ヴェズレーには、マグダラのマリアの遺骨が埋葬されていると聞きましたが、どうも風説が多いようです。

観光を終えたので一路ランブイエに向かいます。1975年ジスカール・デスタン仏大統領の呼びかけで第1回サミットが行われました。日本からは三木首相が出席したはず？ 小さな館ですが是非訪ねておきたい気持ちに駆られます。ドライブを楽しみながら、小雨の降り続く旧道を走ります。

延原 愼吾

1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
2017年開催「第68回 全国カレンダー展」に9度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
http://www.urban.ne.jp/home/nobu36

水彩画　延原　検索